

国文学研究資料館共同研究「手銭家蔵書についての研究」
セミナー12026

ここまで見えた
江戸時代出雲の文芸
と暮らし



出雲大社之人通稱手
銭官三郎号白沢園又
青月庵



調査開始から20年、手銭家蔵書が伝えること

【講演】

手銭家歴代の蔵書が語る江戸時代出雲の文芸活動

田中則雄（島根大学法文学部教授）

「手銭家当主の俳諧活動——三代季硯と五代有秀——」

伊藤善隆（立正大学文学部教授）

日時

8月27日（木） 午後1時半～4時半

（午後1時開場）

会場

島根県立古代出雲歴史博物館 講義室

定員

60名（先着順）

受講料

無料

主催

国文学研究資料館

手銭美術館

後援

島根大学法文学部山陰研究センター
島根県立古代出雲歴史博物館

お申し込み 手銭美術館（火曜休館）

電話：(0853)53-2000

メール：info@tezenmuseum.com

いずれかでお申し込み下さい

お問い合わせ先 手銭美術館（火曜休館）

「手銭家蔵書についての研究」セミナー2026

ここまで見えた 江戸時代 出雲の文芸と暮らし ～調査開始から20年、手銭家蔵書が伝えること～

手銭家は、

江戸時代中期から杵築（島根県出雲市大社町）で造り酒屋を営みながら、代々「大年寄」や「御用宿」を務めることで松江藩と、「千家家近習格」という立場で出雲大社と深い関わりを持っていました。

島根大学・国文学研究資料館・手銭美術館は、2006年から共同で、手銭家に伝来する蔵書の調査を続けてきました。その結果、歴代当主が、和歌・俳諧・漢詩文などの文芸を学び、創作活動も積極的に行っていたことがわかってきました。また、これらの蔵書からは、手銭家とつながる杵築の人々が、日々の暮らしの中で文芸や諸々の文化を楽しんでいた様子が生き生きと読み取れます。

今回のセミナーでは、上記3機関による新たな共同研究「手銭家蔵書についての研究」（2025～2027年度）の成果も取り入れつつ、手銭家蔵書の土台を作った三代・季硯から、それを受け継ぎ発展させた五代・有秀までの文芸活動を中心に考えていきたいと思います。

【講師紹介】

田中 則雄（たなか のりお）

島根大学法文学部教授。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。1990年代から国文学研究資料館による資料調査に携わり、地方の旧家の蔵書発掘に努める。手銭家蔵書の調査には、2006年の開始時から参加。論著に、『読本論考』（汲古書院、2019年）、「手銭家蔵書と出雲の文芸活動」（『調査研究報告』国文学研究資料館、2013年3月）など。

伊藤 善隆（いとう よしたか）

立正大学文学部教授。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程退学。博士（文学）。1999年に国文学研究資料館のリサーチアシスタントを務めて以後、各地の調査に関わる。手銭家蔵書の調査には2011年から参加。論著に、『初期林家林門の文学』（古典ライブラリー、2020年）、「出雲俳諧史と大社俳壇」（『出雲地域の学問・文芸の興隆と文化活動』今井出版、2018年）など。

